

第4回 中富良野町景観計画策定委員会 議事録

◎日 時 令和4年7月6日水 午後1時00分～午後4時00分
◎場 所 中富良野町農村環境改善センター ホール
◎出席者 策定委員会：大矢委員、細川委員、内田委員、長谷川委員、本間委員、荒木委員、安井委員、
畠尾委員、菅委員、遠國委員
事務局：中富良野町企画課 酒井課長、松本係長、藤澤主事
コンサルタント会社：㈱KITABA 窪田、百瀬、松浦、高橋

1. 開会

2. 委員長挨拶

委員長

- ・ 本日もバスで旭川から花人街道を通ってやってきた。
- ・ ちょうどラベンダーが咲いていて、少し花には早いタイミングだったが、本日は、フィールドワークをして具体的に町内の景観を見ていくことになる。皆さんにとってはご承知の景観かもしれない。
- ・ 忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. フィールドワーク

○景観計画区域、景観形成基準・届出対象行為の説明

- ・ フィールドワークに向けて、資料1～4について事務局 KITABA より説明

○各エリアの現状課題

- ・ 事務局 KITABA よりエリアの現状と課題について説明

4. 議事

■基本理念と基本方針

委員

- ・ 基本理念と基本方針は概ね良いと思う。
- ・ 改めてバスで回ってみた結果、田園景観、市街地景観、などのエリア分けは必要だと思うが、見る立場からいうと、はっきりした区分けは必要なのかとも感じ、もっと違う捉え方もあるのかと思った。
- ・ 例えば、人間がコントロールできるものと自然景観などのコントロールできないものがあるため、やまなみ、まちなみ、必要なインフラを整える、個人宅の周辺の景観をどこまで公共のものにするか。
- ・ ここをみてもらいたいというモデル地区のようなものを設定し、理想像を投影していくのも良い。
- ・ 全体を見すぎるとボリュームが大きくなりすぎるのではないか。
- ・ 視野の中には田園だけではなく、山も市街地も見えていているが、それぞれを分けて、市街地側に規

制をかける。

委員長

- ・ 理念に関しては、エリアを分ける分けないということに至る前の基本的な考え方になる。
- ・ 基本理念としては、いろいろな方の意見が反映されている内容であり良いと思っている。基本理念とは、そういった全体的なものの考え方をおさえる話になる。
- ・ 委員の意見のとおり、自然景観と文化景観が一緒に見える。
- ・ ガソリンスタンドの色が気になるというようなことは市街地エリアの話になる。

委員

- ・ 理念の1～5は捉えどころが間違えてなく、良いと思う。委員会で今まで話し合われた内容が入っている。

委員長

- ・ 四季折々の自然景観というのが大事だと思う。
- ・ 北海道は四季の変化がはっきりしているのが特徴で、中富良野町は特に雪に覆われ寒く、夏は本日のように暑く、緑が豊かである。四季によって変化するというはこの地域にとって一番の特徴だと思う。
- ・ 町民がいかに景観的資源を大切に考えて、強調して暮らしを豊かにしていくかということが根本になる。
- ・ 「四季折々の景観」「穏やかな文化景観」という文言が的を得ている。

委員

- ・ 基本方針について、特に2の田園景観づくりの部分では、近年色々な作物が植えてあるという現状や意見を踏まえて、赤字の部分でしっかり表現されている。

委員長

- ・ 肝心なところは、文言に反映されているのではないかと。基本理念・基本方針は了解いただいたということで良いか。

委員

- ・ 「中富良野町らしさ」を事務局としてはどう捉えているのか。これから「らしさ」をどう捉えて計画策定していくのか。
- ・ 以前の委員会で中富良野町らしさというのは何かという問いかけがあったが、中富良野町らしさが固まらないうちに、計画の内容を決めていくのは難しいのではないと思っている。

事務局

- ・ 「らしさ」のベースは四季折々の自然環境があり、自然だけではなく人の営みで作られる盆地、田園

や市街地など。賑わいだけじゃなくてクリーンな、清潔感があるような落ち着いた街並み。自然+穏やかさ、これまでの議論で大事だと話してきたことが、「らしさ」だと捉えている。

- ・ 話し合ってきた“中富良野町らしさ”を大事にし、自然景観と文化景観が折り重なった景観づくりを行っていけると良い。

委員

- ・ らしさの中には歴史も入ってくる。歴史の積み重ねにも中富良野町らしさが出てくると思うので、そこをどう取り入れて計画を策定していくかも大切だと感じる。

事務局

- ・ 関わった当初は、碁盤の目状の水田の区画が特徴だと捉え、水田の田園空間をイメージしていたが、区画の変化や農作物の変化などで、少しずつ彩りや碁盤の目の区画なども変化していく。
- ・ そのように風景も変わっていくため、過去を振り返りながらこれから先のことも捉えていくことが大切。

事務局

- ・ ワークショップ参加者が北星山から風景を見た時の感想や、委員会で中富良野らしさについて出された意見として、雄大、日常の暮らし、のんびりという言葉があがっていた。
- ・ 自然景観と文化景観がちょうどよく合っているという意見がでたので、そういった景観があるという所が中富良野らしさではないか。これからもご意見を取り入れていきたいが、今のところそのような点が中富良野らしさと考えている。

委員

- ・ 長いこと住んでいると中富良野らしさというのがわからなくなってくる。
- ・ 歴史の部分が今後も継続するようなものにするのか、全てをここから新しいものを作るのか、方向性を決めることがこの景観計画の意味なのではと捉えている。「らしさ」が捉えにくかった。

委員長

- ・ 他の町と比較すると「らしさ」が見えてくる。
- ・ 美瑛は丘陵が続き、畑作で輪作をした結果、美瑛町の景観になった。
- ・ 北星山から眺めた時によく分かるが、水田も畑も、いろんな作物が植えられバラエティに富んでいることが特徴だと感じた。
- ・ この町の中だけで見ているとわからないが、比較することで見えてくるものがある。
- ・ 北星山からの景観は本当に美しく、十勝岳連峰が奥に見え、その手前に人々が作ってきた水田や畑の景観がある。
- ・ これまでの歴史が積み重なった結果、現在のこの景観がある。それが非常に特徴的な、他と違う景観となっていると実感した。
- ・ これまでに蓄積されてきた良いものをできるだけ維持していくという指標として景観計画がある。

委員

- ・ フィールドワークにおいて、委員の土地にある「木」を最初に見に行った意図があるのかと思った。
- ・ 私が感じたのは、あそこには中富良野町の歴史があるということ。山続きだったところを開拓して、平坦にして、田園風景が広がった。
- ・ 少しずつ土地改良をしながら今の水田の景観が広がった。人の努力と木の歴史の力、営みを作るための開発をしていった。これが中富良野の特徴だと思う。そのためきれいな碁盤の目状になった。

委員長

- ・ みなさんのご意見を総括すると、示されているような通りで概ね良いのではないかと。

委員

- ・ 「らしさ」については色々なご意見があると思う。町外の人に対して中富良野町がどんなまちなのかを語れることが中富良野らしさだと思っている。
- ・ 基本方針については、町外の方から聞かれた際にこの文章をそのまま言うと、長すぎるためもう少し短くできないか。

委員

- ・ 似たような地域に持っていったらどこでも当てはまってしまうのではないかと。
- ・ 具体的すぎるのは良くないが、文章で中富良野らしさを簡潔に表現できた方が良いのではないかと。

委員長

- ・ どのような案だと良いか、代案はないか。

委員

- ・ 「らしさ」という言葉をつけなくても良いのではないかと。歴史が積み重なった田園風景や北星山というような安定的な表現でいいのではないかと。

委員長

- ・ 北星山からみた景観だけが景観ではない。

委員

- ・ 言葉にイメージが引っ張られてしまうので、中富良野町らしさのイメージを知っている人には分かるけど。

委員

- ・ 基本理念なので、このくらいでいいかと思う。

委員

- ・ アンケートにおいて、昔の風景がよかったという回答をした人がいるが、その時の景観とは何だったのだろう。

委員

- ・ 昔の生活がよかったということではないか。

委員

- ・ 昔の自然風景、自然環境、昔の田園地帯の良さを掘り下げていくと、そこに中富良野町らしさがあるのかもしれない。そういう文言が入っていると良いではないか。

委員

- ・ 我々農家も自然に配慮して、有機農などを組み合わせて行っている。それを認めているのは中富良野くらい。

委員

- ・ 変わってきたのも中富良野らしさであるのではないか。昔に逆戻りすることは出来ない。

委員

- ・ 今まで農家同士が切磋琢磨しながら農業をやってきた。祖父祖母の時代からの努力で田園景観ができてきた。
- ・ 農薬をできるだけ少なく、クリーンにやってきて、賞を取ったこともある。
- ・ これ以上コンパクトにしても、読む人によっては内容が伝わりきらなくなる。だからこの文章に賛成である。

委員

- ・ これ以上コンパクトに仕切れないのではないかと思う。よくまとめられているため良いと思う。

委員

- ・ 理念や方針は一見固いイメージがあるが、この文章だと柔らかさがあるので、中富良野らしさを捉えやすいと感じている。

委員

- ・ 「らしさ」は人によって様々な捉え方があり、明確にするのは難しいので、言い切れないものがある。このままでいいのでは。

委員長

- ・ みなさんのご意見を聞くとこのような内容になる。理念はこれで良いか。

一同

- ・ 意義なし。

■景観計画区域について

委員長

- ・ 景観計画区域について、提案であるように行政区域全体で良いか。

一同

- ・ 意義なし。

■重点区域

委員

- ・ 重点区域を考える際は、景観計画だけではなく、中富良野町の他のまちづくりや計画との連携が必要になると思う。また他の部署や機関との連携は必要になるのではないか。
- ・ モデル地域を作った方が良いと思う。

委員長

- ・ 北星山裏側に住んでいるペンション経営をしている方たちは、あの環境を守りたいという気持ちがあるのではないかと直感的に感じた。

委員

- ・ 景観計画でどこまでルールで縛れるのか。

事務局

- ・ 重点区域など部分的に都市計画に準じる形の厳しい規制をかける検討も可能である。

委員

- ・ むかわ町の並木、街並みを維持するのが大変な状態を見た。
- ・ 今回のこの回で具体的にルールとしてここをこうすると言う議論はできないと思っている。イメージがほしい。

委員長

- ・ 本日フィールドワークを実施して中富良野町には並木が少ないとは思った。

委員

- ・ 並木だと旭川の緑ヶ丘は良い事例だと思う。

- ・ 並木については自治体にお金をかけて維持していく意識はあるかが大切である。
- ・ 山から見たら並木が結構なくなっていると感じる。

委員

- ・ 電線にかかっているものは全部切られてしまった。
- ・ 役場の前の公園が良い景観であるため、もっと魅力を高める仕掛けを設けると良い。

委員

- ・ 鶴居村のようにタンチョウの生息域とかが必要なのでないのなら、改めて重点地区は決めなくて良いと思う。
- ・ 10階建のホテルを建てるなどの場合は違うしほりがあると思うから、今は必要ないと思う。

委員長

- ・ 中富良野町は都市計画をもっていないため、10階建のホテルが畑の中に建つ可能性はゼロではない。景観計画が唯一の拠り所になるのではないかと。

■届出

委員長

- ・ 景観形成基準については今後具体的に考えていきたい。

委員

- ・ 現在の案だと制限があまり強くはない印象を受けた。
- ・ 中富良野の好きなところは自然の豊かなところなので、色に関しては思うところがある。現在の案では、使用する色に配慮するという記述があり、守る規制がある一方で多くの色を使ってもいいと書いてある。
- ・ 黒松内のように、原色を使う際は自然素材を使うようにするというような、努力義務のようなものがあったとしても良いのではないかと。
- ・ 原色は、使ってはダメとはしないが、使用する場合はレンガや木などの天然素材を使用するように努める、くらいの文言があってもいいのではないかと思った。
- ・ 敷地の外構に関しては、可能な限り花を植えましょうとはあるが、ラベンダーを一株以上植えましょうというような努力義務のようなものがあったとしても良いかもしれない。

委員

- ・ 計画が発行された時、役場での運用は、判断はどこでやっていくのか。
- ・ 担当者によっては判断が揺らぐことがないかと感じている。

委員長

- ・ 具体的な数値で規定すると判断がずれないが、努力する、配慮するというところは難しいところであ

る。

委員

- ・ 一切規制をしないというのも危険だと感じている。

委員長

- ・ 今の意見を参考に、もう少し考えていこうと思う。

5. その他

事務局

- ・ 8月ワークショップ、9月以降委員会開催を予定している。

6. 閉会